施工業者の方へ

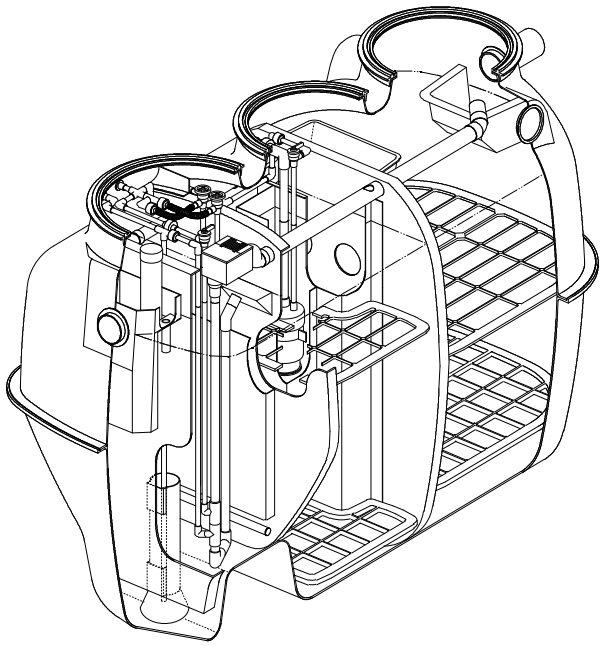
第 9 版 H22.10 改訂

施工要領書

コンパクトタイプ

ダイキ小規模合併処理浄化槽

ＫＲＮ-5･7･10 型



⚠ 注意

・施工要領書に出てくる警告および注意表示の部分は、浄化槽を施工する前に特に注意深く読み、よく理解してください。

Daiki AXIS

１．はじめに ・・・

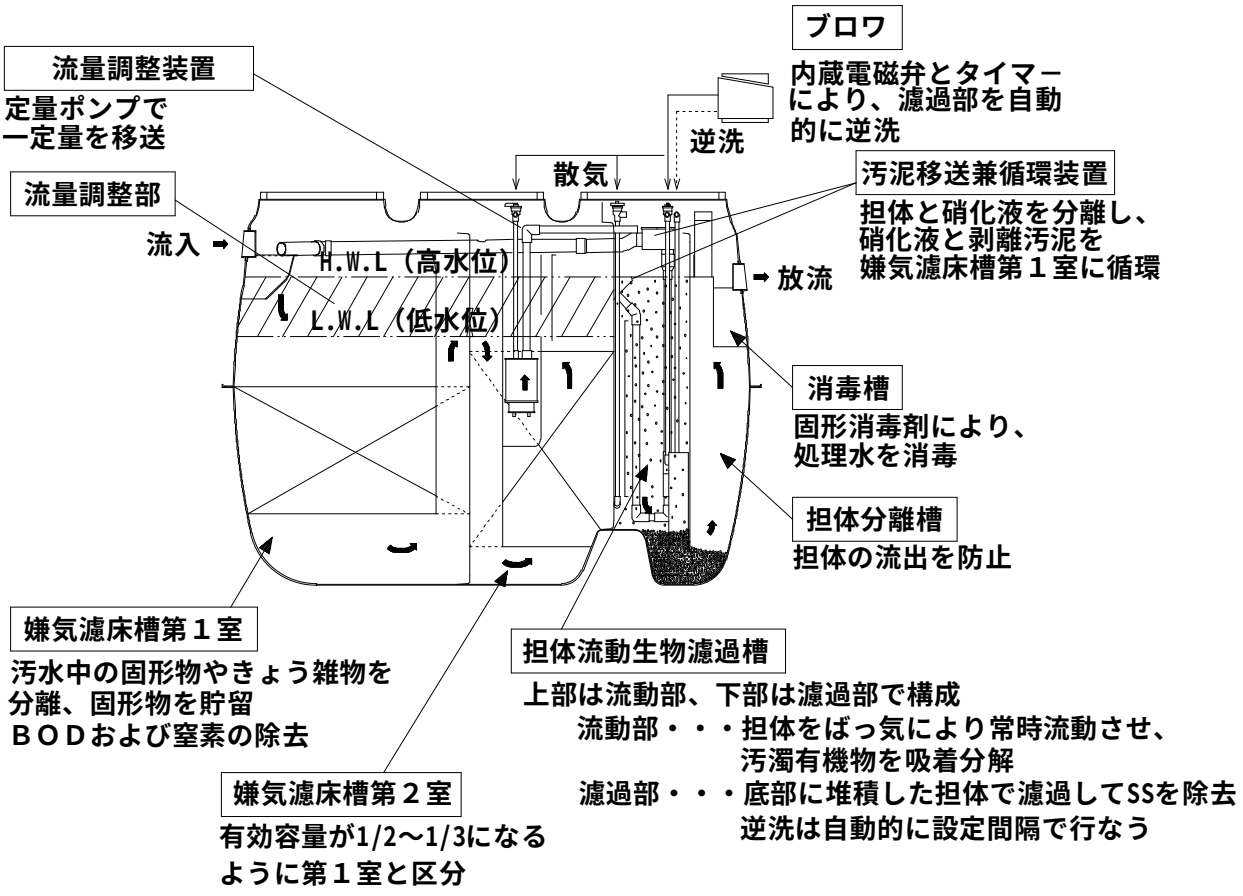
1．はじめに

ダイキ浄化槽をご愛顧いただき、厚くお礼申し上げます。
ご利用される皆さまに、KRN型についてより深く理解していただき、正しい施工方法により、浄化槽本来の優れた機能が発揮できるよう、施工要領書を作成いたしました。十分に目を通していただき、より安全で確実な施工のためにお役立てください。

2．KRN型の構造と機能

ダイキ小規模合併処理浄化槽KRN型の構造と機能は以下の通りです。KRN型の特性を十分ご理解の上、工事にあたってください。

KRN型　5･7･10人槽



3．警告および注意事項

本書で使われている表示マークには、次のような意味があります。表示と内容を必ずお読みになり、よく確認してください。

⚠	**警告：**この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。
⚠	**注意：**この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、使用者が傷害を負う危険および物的損害※の発生が想定される内容を示します。
	※ 物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペットにかかわる拡大損害を示します。

⚠ 警告　1）マンホールからの転落・傷害事故防止

●工事中は、必要なとき以外はマンホールのフタを必ず閉めてください。
●フタやマンホール枠のひび割れ・破損などを発見したら、ただちに交換してください。
●フタをコンクリート面や地面等に置く時は、落下させずに丁寧に置いてください。
●安全荷重 250 kgのフタは車両等が載るところでは、使用しないでください。

これらの注意を怠ると、転落・傷害が生じる恐れがあります。

⚠ 警告　2）槽本体の落下事故防止

●槽の吊り上げ・据え付け作業は、本体への玉掛けを確実に行い、絶対に槽の下には立ち入らないように、安全を十分に確認して作業してください。

これらの注意を怠ると、傷害事故が生じる恐れがあります。

⚠ 警告　3）感電・発火事故防止

●ブロワ・制御盤は、必ずアース工事をしてください。
●ブロワの電源は、防水型接地端子付コンセントをご使用ください。

これらの注意を怠ると、感電・発火が生じる恐れがあります。

⚠ 注意　1）転落事故防止

●埋設工事に際して、穴を掘った周囲には、防護柵棟を作り、関係者以外立ち入らないようにしてください。また、据え付け後の水張り、浮上防止金具の取り付けなどの作業時に槽本体に直接乗らないでください。外槽表面はとても滑りやすく、落下する危険がありますので、足場板などを使用した上、十分注意して作業してください。

これらの注意を怠ると、転落事故が生じる恐れがあります。

⚠ 注意　2）消毒剤による器物破損事故防止

●浄化槽に入れる消毒剤は、浄化槽を使用開始するまでは開封しないでください。
●浄化槽へ流入する排水元の設備・機器（トイレ、浴室、洗面台、台所など）のトラップが切れていないことを確認してください。

これらの注意を怠ると、消毒剤から塩素ガスが発生し空気中の水分と反応し、塩酸を生じ、このため設備・機器の金属類を腐食し、機器破損・障害事故の生ずる恐れがあります。

4．留意事項

浄化槽設置工事は、各都道府県に登録されている専門の(浄化槽設備士の資格を持つ)工事業者が行ってください。

●浄化槽の設置届けが完了しているかを確認してください。
●施工要領書、浄化槽工事の技術上の基準などの諸法令を確実に守って工事してください。特に基礎工事、埋め戻し工事、上部スラブ打設などは、施工要領書に基づき正しく行ってください。工事が不完全な場合は、槽破損による汚水漏れや放流水質の悪化などの不具合の原因になります。
●電気工事は電気工事士の資格を持つ、専門業者にお願いしてください。
●ブロワを設置する場所は通気性(防湿)、騒音、降雨、積雪、浸水等配慮して決めてください。基礎は振動防止のためにコンクリート製とし、建築物の基礎および犬走から離した(２０㎝)位置で、上面は地盤(Ｇ.Ｌ)より 10㎝ 以上で、幅と長さはブロワ本体の外寸よりそれぞれ５ ㎝ 以上大きくしてください。
●浄化槽本体の設置場所上部を**総重量2tを超える車**の駐車場・車庫にする場合、交通量の多い道路端に設置する場合、また、近くの建築物荷重が槽本体に影響する場合、軟弱地盤に施工場合、多雪地帯に設置する場合などは特殊工事になりますので、槽本体に影響を及ぼさないよう、補強工事を行ってください。
●埋め戻しは、浄化槽を破損しないようにつぎのような事項に注意して作業してください。
　① 水張りの後に、埋め戻し作業を行ってください。
　② 埋め戻しの土は、石ころなどが混入しない砂質土を用いてください。
　③ 埋め戻し時に重機のバケットなどを槽に当てたり、高いところから埋め戻しの土を落とさないでください。
●設置作業完了後、正しく施工できたかを工事竣工チェックリストなどで確認(竣工検査)をしてください。
●引き渡しのとき浄化槽の正しい使用方法を使用者(施主)に説明した上、チェックリスト（P17 を参照してください）、取扱説明書、維持管理要領書をお渡しください。
●使用者に浄化槽の保守点検業者と維持管理契約をするよう指導してください。
●本書および浄化槽の設置工事全般に関して不詳な点があれば、弊社の支店･営業所か、お客様窓口にお問い合わせください。
●冠水する場所及び雨水の逆流により、槽内の水位が上昇する場所への設置は避けてください。

5．施工開始前にお確かめください

① 施工資格が必要です

浄化槽の施工を行うには、法令上の資格制限を受けます。つまり、浄化槽工事を行う場合は当該現場に浄化槽設備士を置かなければなりません。

② 設置届はお済みでしょうか

施工の前に必ず設置届を所轄の自治体へ提出し、許可を受けてから工事に着手してください。

③ 設置場所は適当ですか

1）浄化槽はトイレと放流先を最短距離で結ぶよう、位置を決定してください。

2）次のような場所への設置は避けてください。

●屋内、床下、物置の下などの維持管理できないところ

●大雨などで浸水（冠水）しやすいところ

●建築物基礎の下など、建物の荷重が直接かかるところ

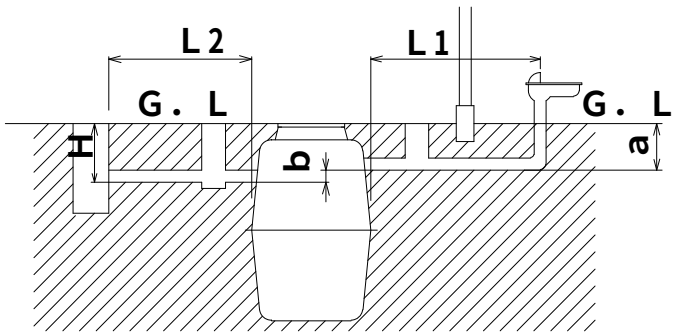
●運転音の気になる寝室や応接間、勉強部屋などの近く

3）ブロワは水気・湿気・塵埃の多い所、風通しの悪い所、また、運転音の気になる寝室や応接間、勉強部屋などの近くへの設置も避けてください。

※やむを得ず浸水(冠水)するところに設置する場合には、放流ポンプ槽（一体型、別置型）を設け、排気管工事を行ってください。

④ 放流に必要な勾配が取れますか

トイレ・風呂および台所などの出口配管と放流場所との落差を測り、放流に必要な 1/100 以上の勾配を取ってください。



$H \geqq a + b + (L1 + L2)/100$

適切なこう配のとり方

H：設置に必要な最小落差(cm)
a ：風呂、台所、便器等、
出口配管の深さ(cm)
b ：浄化槽自体の落差(cm)
L1：風呂、台所、便器等から浄化槽
までの配管距離(cm)
L2：浄化槽から放流場所までの
配管距離(cm)

※放流先の水位変動も考慮してください。場合により、放流ポンプ槽の設置が必要です。

6．施工の段取り

① 現場調査における確認事項

施工の準備としては、まず現場調査を行い、工事を行うための次の条件を確認してください。

1）設置場所の広さ …… 設置図面通りの広さがあるか。

2）配管路の状況 …… 浄化槽の配管経路に障害物はないか。

3）搬入、搬出路の状況 …… 浄化槽の持ち込みができるか。
残土処分の搬出路，槽本体の搬入路はあるか。

4）設置場所周囲の状況 …… 資材置場、トラック、残土の一時置場があるか。

5）土質の良否及び湧水の有無 … 土質の状況はどうか。
湧水はあるか。
矢板など必要か。

6）工事電力、工事用水の状況 … 現場で電気、工事用水が調達できるか。

② 施工に必要な作業道具器材の点検

浄化槽の施工には、下表の道具類や材料が必要です。

道具類	穴　　掘	スコップ、ツルハシ、パワーショベル 等
	基礎固め	つき固め用の木槌または角材
	水平をとる	水準器、水糸、渡材
	そ の 他	左官ゴテ、バケツ、ホース、スパナ、スケール、モンキレンチ、ポンプ、滑車、バール 等
材　料	骨　　材	セメント、砂、砂利、栗石
	配管材料	塩化ビニール管、エルボ、チーズ管、接着剤
	そ の 他	会所升

③ 浄化槽および付属部品の確認

1）表示の有無および、その表示内容を確認してください。

2）納品書の明細などで付属部品が揃っているかを確認してください。その際に、槽の内部や付属部品に土やゴミがつかないように注意してください。
※特に担体の取り扱いには、十分に注意してください。

④ 浄化槽工事業者登録票の準備

浄化槽法第 30 条により、現場ごとに標識を掲げなければなりません。

7．施工の手順と注意事項

① 水盛やりかた

1）敷地整理の後、浄化槽の設置位置を決定するために地縄張りをしてください。

2）配置図に基づき予定位置に縄(または白線、石灰)を張り、建築主と工事関係者立会いのもとに敷地、建物、敷地境界との関係を確認してください。

3）レベル、位置、方向、芯を表示するためにやりかたを設けてください。

1．掘削予定部分から少し離して要所、要所に水ぐい（地ぐい）を打つ。

2．水抜きの上端をカンナがけしておいて水ぐいに高さの基準をしるし、水抜きの上端をこれに合わせて水平に取り付ける。

3．工事に支障のないところに逃げ芯を設け、その養生をしておく。

② 掘削作業

槽本体を埋設するための掘削は、施工図を参照の上、行ってください。槽を据え付ける時は、作業者が穴の中に入って作業をしなければならないので、余裕のある掘り方（30㎝ 以上の余掘り）と、安全な法面勾配をとってください。

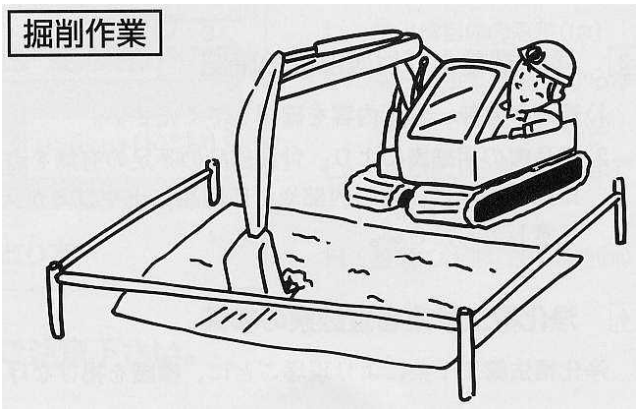
1）有資格者（浄化槽設備士）による指揮のもとで作業を開始してください。

2）掘削作業は建物、浄化槽に悪影響がないように建物などから十分な距離を取って行ってください。また、掘削場所の水道管やガス管、電線管など、地下埋設物の有無を事前に確認して、破損や事故がないように十分注意して工事を進めてください。

3）設置場所の周囲、掘削深さ、地質や地下水の状況に応じて、山留や水替工事も検討してください。

4）掘削場所の周囲は危険防止のため、安全柵や仮囲いを設けて、安全標識を見やすい位置に表示してください。

5）掘削しすぎた場合は、掘削土で高さを調節すると地耐力が低下する可能性があるので、捨コンクリートまたは基礎コンクリートで高さを調整してください。



※自然放流タイプにおいて、上部を総重量２ｔ以下の駐車場に設置する場合には、支柱工事が不要になります。

⚠ 注意：

・積雪量 1 m以下の場所に設置してください。
・長期許容地耐力 30kPa 以上で車両等の重量に耐える地盤に設置してください。
・最高地下水位が地盤面下 0.5 mまでとし、雨水等で水が溜まる場所、水みちになる場所には設置を避けてください。

また、下記の条件に該当する場合には、特殊工事が必要になります。（p14 を参照してください）

・上部を総重量 2 ｔを超える車の駐車場に設置する場合
・放流ポンプ槽一体型及び別置型を設置する場合　など

③ 基礎工事

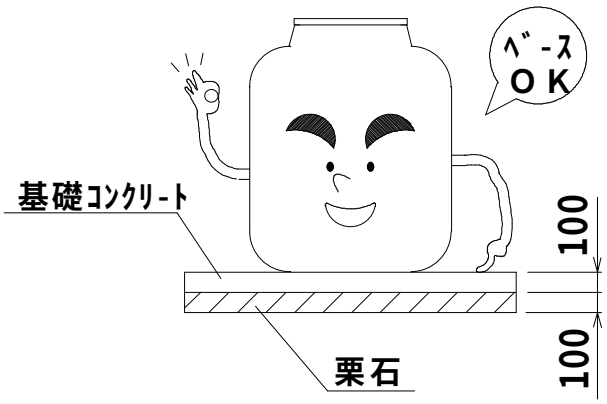
１）掘削終了後、栗石と目潰砂利による地業工事を行いますが、100 ㎜厚の鉄筋コンクリートで長短辺共に、D10・ﾋﾟｯﾁ200㎜ のシングル配筋とします。

２）基礎コンクリートは強度 18 N/㎟以上のＪＩＳ規格品を 100 ㎜程度の厚さで、水平に打設してください。

３）必ず水準器で水平を確認してください。目視のみによる打設はしないでください。

４）基礎コンクリートを省略して砂だけを敷いた基礎をつくると長い間に砂が洗われて、栗石や地中の石が直接槽の底部に接し、槽本体の破損に繋がります。

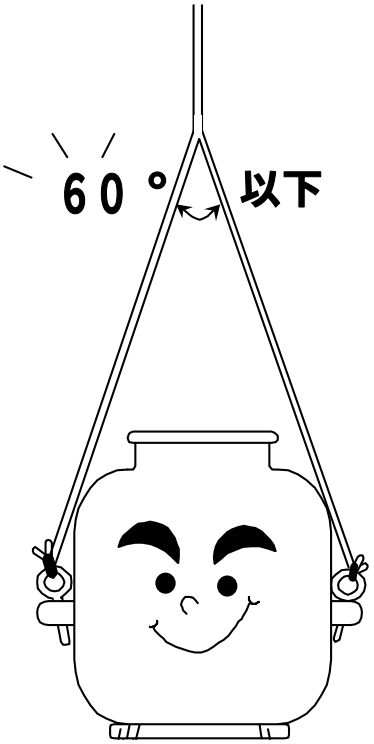
５）支柱工事が必要な場合は基礎コンクリートの厚み、配筋等が違ってきますので、施工図または工事仕様書などに従ってください。
詳しくは、弊社まで連絡ください。



＜設置場所を乗用車の駐車場として利用する場合＞

基礎コンクリートは 100mm 厚の鉄筋コンクリートで長短辺共に、D10･ﾋﾟｯﾁ200mm のシングル配筋とします。

④ 据え付け工事



本浄化槽は工場生産品ですから、現場での据付け作業が非常に簡単で、短時間で工事を完了することができます。本体外槽は面圧に対して十分な強度がありますが、強い衝撃を与えると内部部品が破損する恐れがありますので、静かに降ろしてください。

1）浄化槽の接合部(フランジ)に吊り具を４ヶ所取り付けていますので、２本のロープを使って必ず４点吊りをしてください。吊り上げ角度は図のように６０°以下になるようにロープの長さを調整してください。

2）槽本体の開口部間や流入管と流出管部にロープを掛けて吊り上げたり、２点吊りしたりすると、槽本体の破損の原因になります。

3）流入(入)、流出(出)の方向や設置レベルを確認します。

4）設置後、槽の安定をチェックして、開口部の上端で水準器を使用して水平を確認してください。

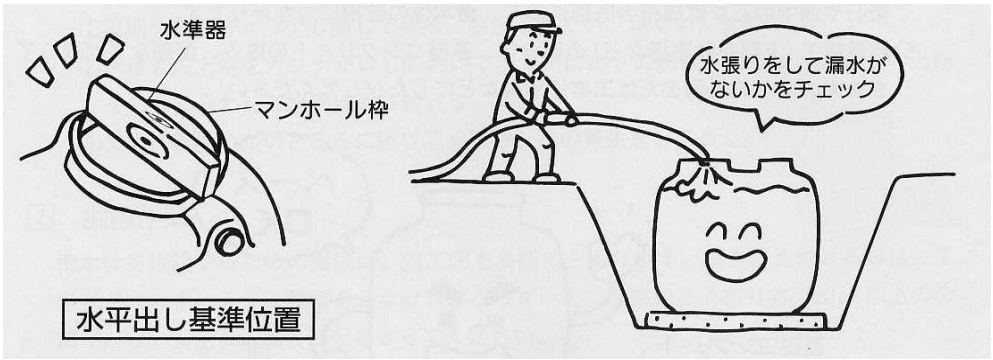
5）水張りをしながら、再度水平を確認して、漏水がないか槽の周囲を確かめてください。なお、水張りをする際は下記の手順で行ってください。

① 嫌気濾床槽第１室から水張りを行い、１室と２室の仕切板の移流口から嫌気濾床槽第２室に移行させ、水準目安線(M.W.L)付近で流入を停止します。

② 担体流動生物濾過槽の水張りを行い、消毒槽に越流する前に流入を止めます。その後、消毒槽の水張りを行います。

※放流ポンプ槽一体型の場合、直接放流ポンプ槽への水張りはしないでください。

※※担体流動生物濾過槽にH.W.Lを越えて水を勢いよく入れ続けると、担体が水の流れに伴って巻き上がり、流出する恐れがあります。万一流出し、消毒槽に入った担体は回収して、担体流動生物濾過槽に戻してください。



6）マンホールを閉めてマンホールの水平がとれているかどうか、がたつき等ないかどうか確認してください。

※工場出荷時に確認は行っていますが、設置、仕上げ状況に関係する場合があります。

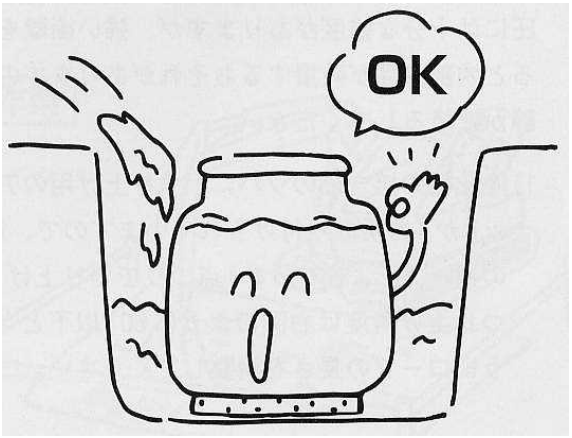
⑤ 埋め戻し

1）浄化槽の埋め戻し前に必ず槽内の水準目安線(M.W.L)まで水を満水にしてください。水張りをしないで埋め戻しをすると、槽の移動や傾きが起こります。
また、埋め戻しの土圧により、槽本体や仕切板などに変形が発生する恐れがありますので注意してください。

2）埋め戻しの際にマンホールの開口には必ずフタをして、土砂が槽内に入らないようにしてください。

3）埋め戻しの土は石などが混ざっていない土砂を用いて、周囲を 20～30㎝づつ均等に埋め戻しをします。砂質土の場合は水締めおよびつき固めの作業をしますが、粘土質の場合は水締めを避けて転圧のみとします。

4）埋め戻しに当たっては、槽の水平を確認しながら行ってください。片埋めは槽の傾きによる水平不良や局部荷重の原因となり、破損が発生する恐れがあります。



⑥ 流入管、放流管工事

1）槽外配管工事は必ず埋め戻しの後、槽が安定した状態でそれぞれの管を接続してください(排気管工事も同様)。埋め戻し前に 1 m程度の逃げ配管をすると、土砂の重みによって逆こう配や槽本体の変形に繋がります。

2）槽本体が変形するような荷重を与えないように、配管をソケットに接続してください(必ず塩ビ用接着剤を塗布して、確実に接着してください)。配管口径と配管こう配は右表を標準とします。

管径	こう配
φ100	1／100

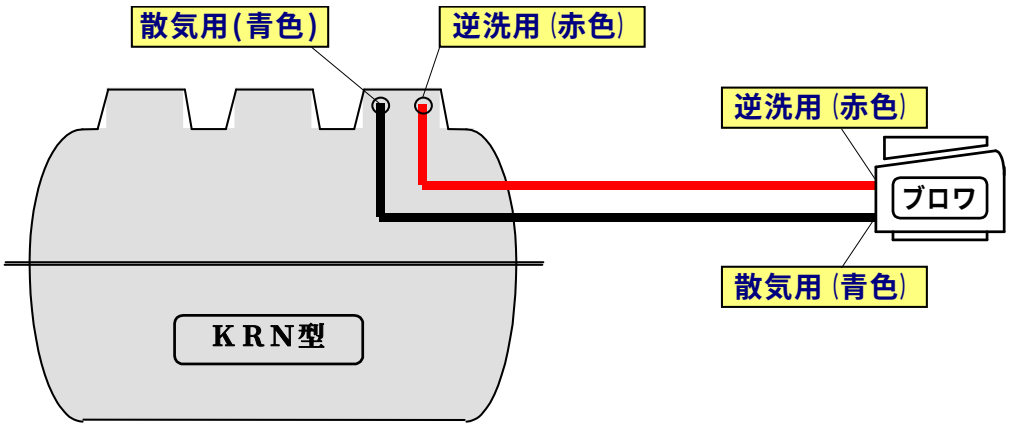
3）流入管路の升はインバート升とし、雨水が入らないように密閉できるフタにしてください。また、臭気の逆流を防止するため、屋内の排水管にトラップ升がついていない場合は、トラップ付きのインバート弁を設置してください。

4）配管の土かぶりは通常 20㎝ 以上ですが、凍結や特殊な条件がある場合は各都道府県の指導に従ってください。

5）浄化槽への配管と雨水配管とは必ず別配管とし、雨水が浄化槽に入らないようにしてください。なお、浄化槽の放流側の升に雨水配管を接続する場合は、雨水が浄化槽に逆流しないように、十分な落差をとってください。

⑦ 送気管工事

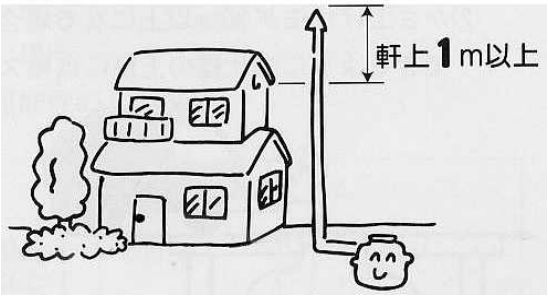
ブロワの吐出口には散気用と逆洗用があります。浄化槽本体にも、散気用と逆洗用の送気口がありますので、よく確認して、**絶対に誤接続しないでください**。
送気管を正しく接続しないと所定の処理性能が発揮できません。



1）ブロワ吐出口には散気用(青)と逆洗用(赤)があります。
2）担体流動生物濾過槽の開口部に散気用(青)と逆洗用(赤)の接続口があります。
ブロワの散気側と開口部の散気用を、同様にブロワの逆洗側と開口部の逆洗用をそれぞれ接続します。
3）浄化槽とブロワの距離は10ｍ以内とし、できる限り直線配管としてください。
4）その他の注意事項等については、⑪ブロワの据え付け工事（p13）を参照してください。

⑧ 排気管工事

浄化槽には臭気が付きものですので、排気管は必ず設けてください。浄化槽の運転状態、設置場所などにより臭気が問題になる場合がありますので、ご注意ください。
1）排気管は、所定の場所まで横引管で延ばし、エルボなどを使って近隣の関係を配慮し、できるだけ通風の良い所を選んで立ち上げてください。
2）立ち上がり高さは近隣の住居を考慮に入れ、苦情が生じないように最低３m以上で、横引き長さの２倍以上としたり、あるいは管径を太くしたりして、軒上１mまで上げてください(横引管はなるべく短い方が良いことになります)。
3）風などで倒れないようにサポートをつけてください。
4）横引管のこう配は、必ず浄化槽に向かって下りこう配にしてください。配管が逆こう配になっていると、結露水が管内に溜まり、排気ができなくなります。
5）放流ポンプ槽（一体型、別置）を設ける場合は、必ず排気管もしくは通気管を設けてください（「8.特殊施工」の項を参照）。



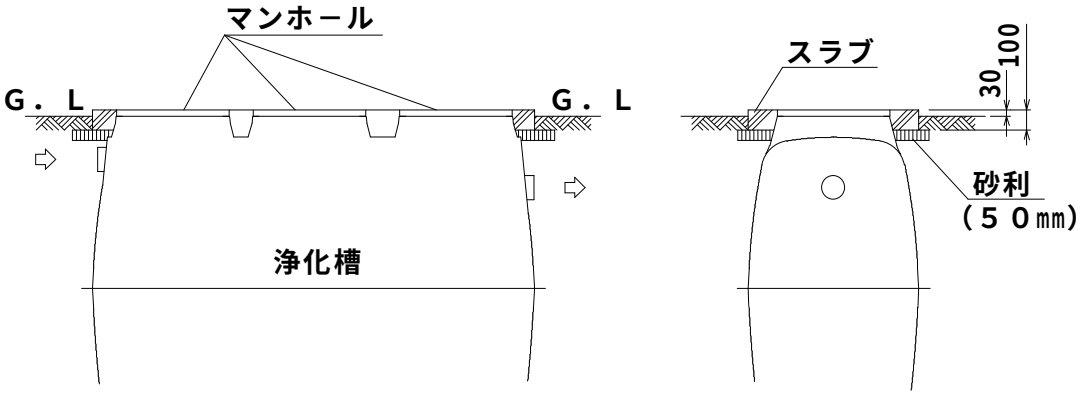
⑨ 上部スラブコンクリート工事

1）施工図に従い、配筋を行います。マンホール開口部には補強筋を施しコンクリートを打設します。

2）コンクリートを打設後、まだ固まらない間に表面を金ゴテで仕上げてください。

＜積載荷重 180kgf/㎡以下の場合＞

上部スラブは 100 ㎜厚の鉄筋コンクリートで長短辺共に、D10・ピッチ200㎜ のシングル配筋とします。



積載荷重 180kgf/㎡以下のスラブ工事

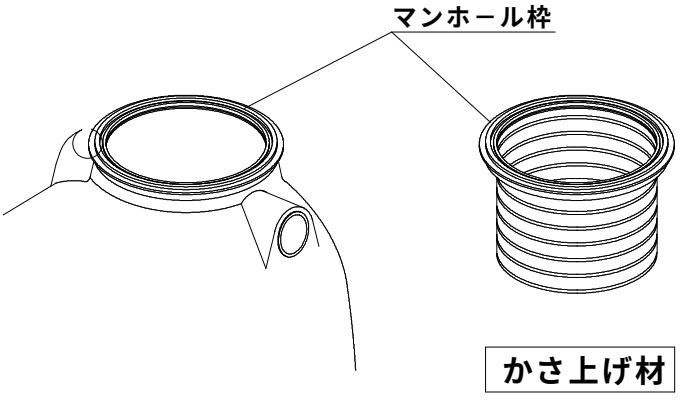
＜積載荷重が2ｔ以下の乗用車の場合＞

上部スラブは 100 ㎜厚の鉄筋コンクリートで長短辺共に、D10・ピッチ200㎜ のシングル配筋とします。

※ＫＲＮ－５・７・10 型は浄化槽に直接荷重を掛けても構造耐力上、支障ありませんので、支柱工事は不要です。

⑩ かさ上げ工事

1）マンホール枠は浄化槽本体開口部にビスで固定しています。かさ上げが必要な場合は、マンホール枠を外し(ビスを抜く)、塩ビ製のかさ上げ材を開口部に被せてください。外したマンホール枠はかさ上げの高さを調整した後、かさ上げ材に被せてください。



2）鋳鉄製のマンホールを使用する場合は、樹脂製のマンホールと同様の作業を行ない、さらに樹脂製のマンホール枠の上に鋳鉄のマンホール枠を載せます。

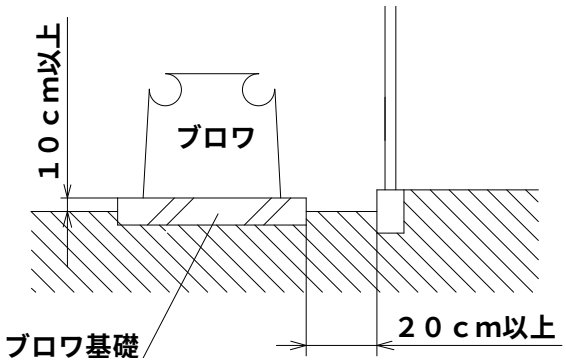
※かさ上げは３００Ｈまでとしてください。

⑪ ブロワの据え付け工事

1）ブロワの据え付けは、下記の条件を満たした場所を選んでください。
- 風雨や直射日光が当たらない、通風の良い場所。
- 水はけが良く、湿度の少ない場所。
- 寝室や応接室、勉強部屋などから離れていて、音が反響しない場所(運転音や振動の問題が発生しにくい場所)。
- 保守点検が容易にできて、ほこりの少ない場所。
- 積雪地域の場合は、ブロワが雪の中に埋没する恐れのない場所。

2）浄化槽とブロワの距離は 10 m以下とし、できる限り直線配管としてください。

3）ブロワの基礎の上面はG.Lから 10㎝ 以上とし、水平にコンクリートを打設してください。また、ブロワの基礎と建物の基礎および犬走との一体化は振動が伝播し、クレームの原因となりますので、20 ㎝以上離した位置にしてください。



4）立下りの送気配管は建物の基礎および犬走を貫通させないでください。（配管の振動が伝播し、クレームの原因となります。）

5）送気配管の埋設深さは 10㎝ 以上とし、上部スラブコンクリート以外で送気配管の上を車が通る場合は、厚み 15㎝ 以上の鉄筋コンクリートで保護してください。

6）浄化槽と送気管が正しく接続されているか、再度確認してください(⑦参照)。

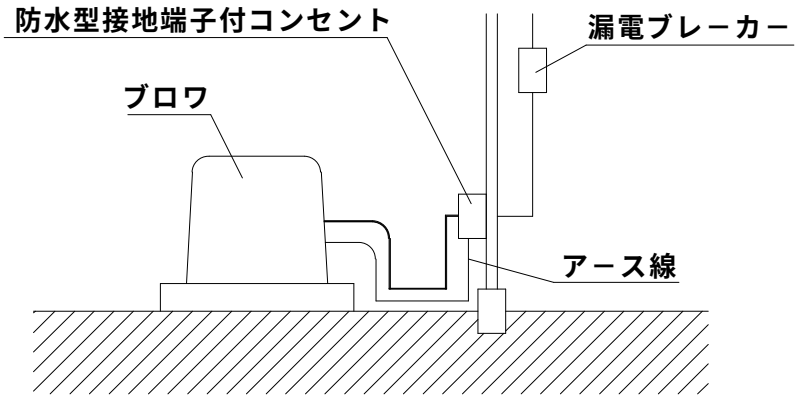
⑫ 電気配線工事

1）電気工事は資格を持った専門の業者に委託してください。

2）コンセントは防水型接地端子付コンセントを使用します。

3）ブロワに付属のアース線を利用して、必ず接地工事をしてください。

4）通電して異常の有無を確認してください。



電気工事

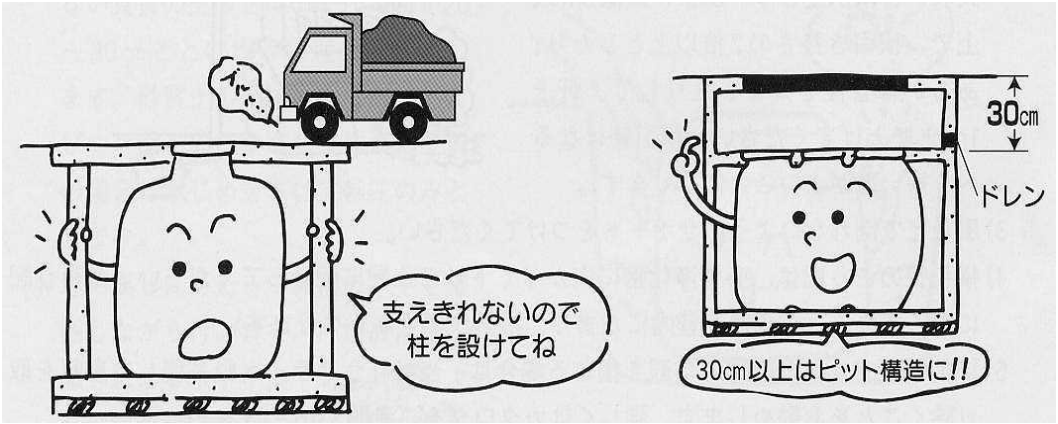
8．特殊施工

（1）駐車場に設置する場合及び流入管底の深い場合

下記に示す場合には支柱工事、その他条件にあわせた特殊工事が必要です。
①上部を総重量２ｔを超える車の駐車場にする場合
②放流ポンプ槽一体型及び別置型を設置して、上部を駐車場にする場合
③かさ上げ寸法30㎝以上の場合や、特殊な条件にて設置する場合

①、②の場合は、下図のようにベースとスラブの鉄筋コンクリートの間に支柱を設けて、上部荷重が直接浄化槽に掛からない構造とします。

③かさ上げ寸法30㎝以上の場合は、下図のようなピット構造とし、点検が容易にできるように浄化槽の上部に点検スペースを設けます。



支柱工事　　**ピット工事**

施工については、施工図または工事仕様書などに従ってください。詳しくは、弊社まで連絡ください。

（2）放流ポンプ槽を設置する場合

放流ポンプ槽を設置すると放流管が水封されます。水封されたままだと浄化槽内の空気の逃げ道が無くなり、浄化槽から臭気が発生したり、消毒剤から発生する塩素ガスによって浄化槽内の機器類、建物内の台所及びドア取手などの金属類が腐食する恐れがあります。

そのため、放流ポンプ槽を設置する場合は臭突管を立ち上げるか、臭突管の立ち上げが困難な場合は通気管を設けるようにしてください。

なお通気管を設ける場合は放流ポンプ槽に側溝の排水が逆流することのないよう、側溝の高い位置に上向きこう配に接続するように注意してください。

○ 放流ポンプ設置時の配管例

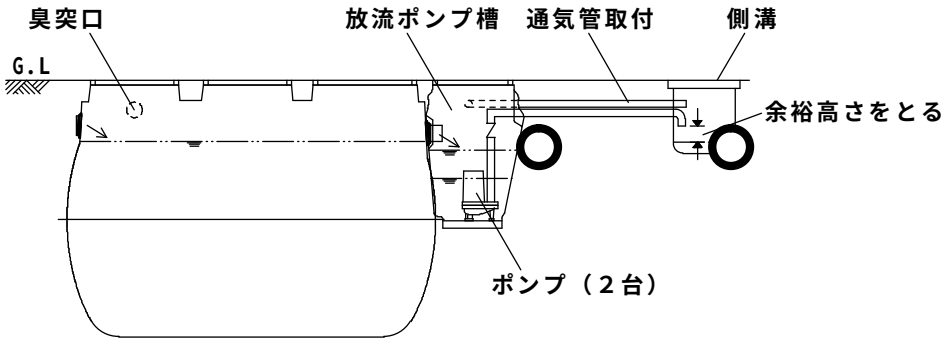
処理水の放流先が浄化槽の放流管底より浅い場合や、浄化槽の放流管から放流先までの配管にこう配がとれない場合は、放流ポンプ槽を設け、処理水を放流先まで圧送してください。

(1) 放流ポンプ槽から放流先までの配管は、処理水が配管内に溜まらないようにする。

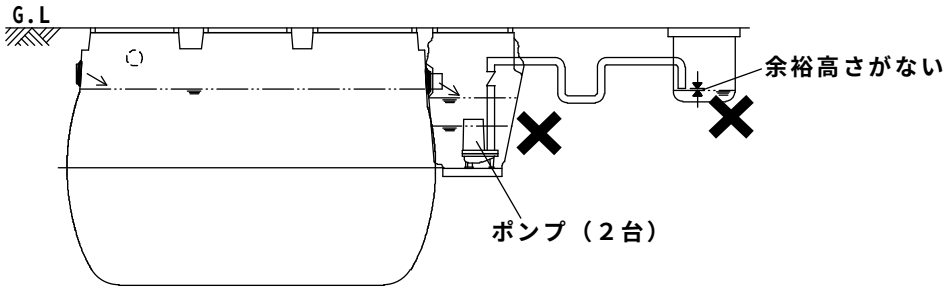
(2) 放流管は放流先の最高水位よりも高く設置する。

(3) 浄化槽本体の臭突口には必ず臭突管を設ける。やむを得ず臭突管を設けることができない場合には、下図に示すように通気管を設ける。

○

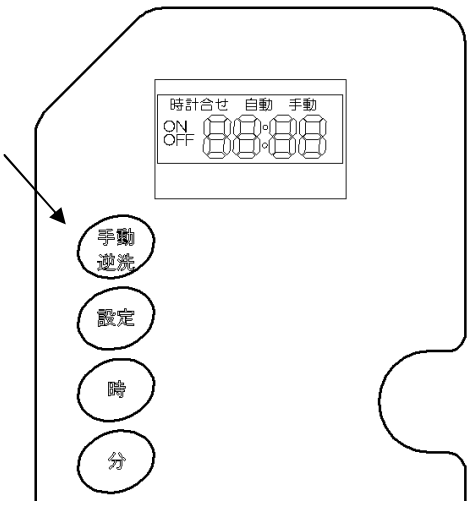


×



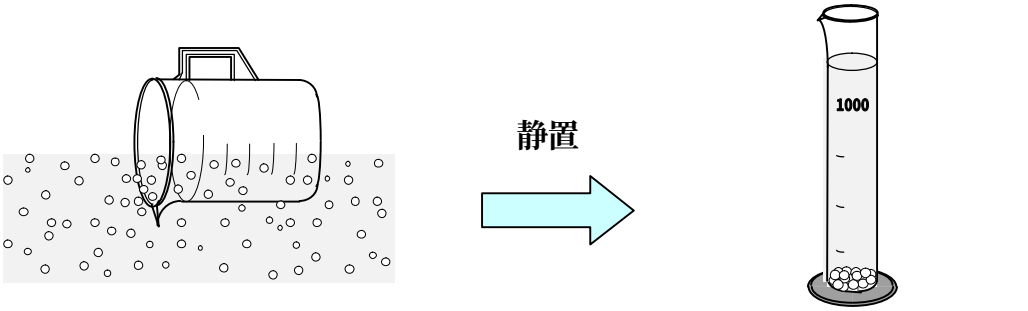
9．確認と試運転

1) 流入管、流出管のレベルが逆こう配になっていないかなどのチェックをした後、実際に水を流して配管および升が正しく施工されているか確認します。
2) 図面と照らし合わせて、槽内部品の脱落や有無を確認してください。特に、担体が流動担体生物濾過槽に充填されていることを確認してください。
※担体が湿潤状態であることを確認し、乾燥して縮んでいる場合は交換してください。
3) 各槽内の水位が正常値かの確認と同時に、水平に設置されているかを水準目安線でチェックしてください。
4) ブロワ配管の確認
ブロワに電源を入れて流量調整装置（定量ポンプ）が作動しているか確認して下さい。
定量ポンプのバルブが開いているに作動しない場合、散気用と逆洗用の送気配管が反対になっている可能性があります。
5) ブロワを作動させて、槽内が正常にばっ気され、担体が流動することを確認してください。
6) また、ブロワ内蔵パネルの手動逆洗ボタンを押し、担体流動生物濾過槽内の水流が、散気状態から逆洗状態（担体流動生物濾過槽の放流側隔壁に沿うような水流）に切り替わり、正常に逆洗されているかを確認して、流動担体量(充填担体量)を確認します。



＜ブロワ内蔵パネル(右図)＞
手動逆洗ボタンを押して散気、逆洗を切り替えます。
もう一度押すと散気状態に戻ります。

＜充填担体量の確認方法＞
逆洗状態において、担体流動生物濾過槽の流動水を１リットルすくい、メスシリンダーで、静置後に沈降した担体の容積比を確認します（下図参照）。



担体流動生物濾過槽の汚水を
担体ごと 1ﾘｯﾄﾙすくう

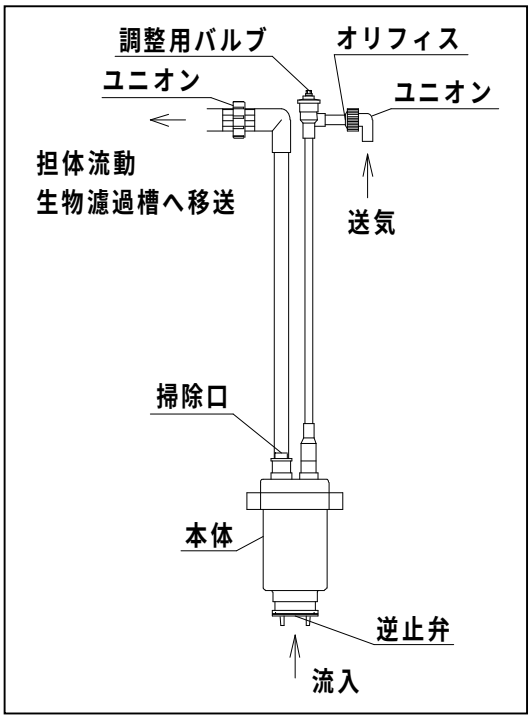
沈降している担体の容積比を測定

※担体量は次頁の表の範囲に入っていれば、おおむね適正です。

適正担体量（１リットル採水し、５分間静置後）

	逆洗時の流動担体量	【参考】実充填率		
		５人	７人	10 人
容積比［%］	約 15	18.0%	17.6%	18.3%
担体容量［ﾐﾘﾘｯﾄﾙ］	約 150			

５）再度点検ボタンを押し、通常の散気状態に戻した後、流量調整装置、循環装置の順に　移送量の確認と調整を行ってください。



① 流量調整装置

定量ポンプは間欠的に一定水量を排出する動作を繰り返します。排出から次の排出までの間(1サイクル)の時間の長さによって移送量を確認します。

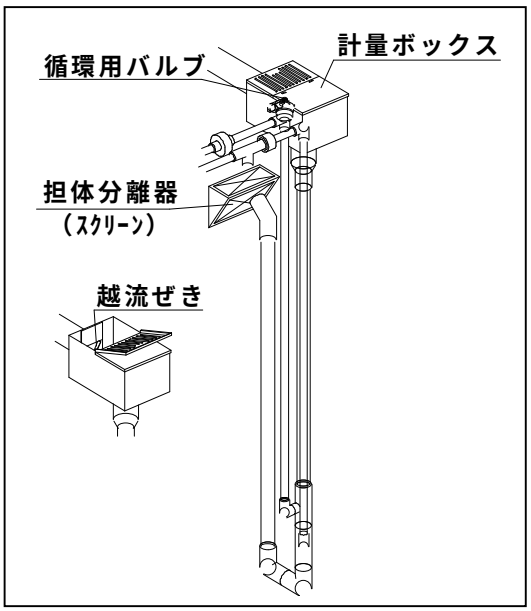
・各人槽における所定移送量とそれに対する１サイクル時間を下に示しますので、それぞれを確認してください。
・１サイクル時間の調整は流量調整用バルブの開度で行います。

各人槽の１サイクル時間と移送量

	５人槽	７人槽	10 人槽
１サイクル時間［秒］	19	14	10
移送量[ﾘｯﾄﾙ/分]	3.6	4.4	6.3

② 循環装置

循環水量は計量ボックスの越流ぜきで確認の上、循環用バルブで微調整を行ってください。



・循環水量は汚泥移送管の先端部でビーカーに循環水を受けて実測してください。
・循環水量の微調整は循環用バルブの開閉で行ってください。

各人槽当たりの循環水量

	５人槽	７人槽	10 人槽
循環水量[ﾘｯﾄﾙ/分]	2.4	2.9	4.2

６）ブロワの振動や騒音がないか、屋内での確認も合わせて行います。

10. 完了検査と引き渡し

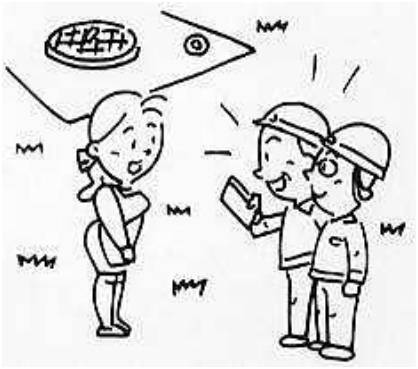
工事完成後に見落としがないか、下記のチェックリストで確認します。

	項　　目	チェックポイント	適・否
1	槽上部の利用状況	恒久物を建てるなど、維持管理に支障はないか。	
2	雨水の流入	マンホールから雨水が槽内に流れ込まないか。	
3	流入升	トイレの排水・雑排水が接続されているか。インバート升になっているか。雨水の接続はないか。	
4	水の流れの状況	逆こう配や接続不良がないか。	
5	マンホールの開閉	モルタルで固定されてしまっていないか。枠の変形は無いか。	
6	かさ上げピットの状態	バルブに手が届くか。保守・点検・清掃作業ができるか。	
7	浴室のトラップ	浴室、流し等の排水管にトラップを付けてあるか。	
8	部品の欠落	部品(薬剤筒、消毒剤、ブロワ)はあるか。 担体流動生物濾過槽に担体は充填しているか。その充填量は適正か。	
9	部品の破損	部品(薬剤筒、消毒剤、ブロワ)の破損はないか。	
10	流量調整装置の確認	流量調整装置のバルブ開度が規定通りに設定されているか。	
11	循環装置の確認	流調用バルブ開度が規定通りに設定されているか。	
12	ユニオンの緩み	ユニオンの締め付けは完全か。空気の漏れはないか。	
13	空気配管の横振れ	空気配管はきちんとセットされているか。	
14	送気管誤接続の確認	ブロワを運転すると、流量調整装置が作動しているか。	
15	オリフィスの詰り	オリフィスの詰りはないか。	
16	ブロワのタイマ	タイマの逆洗運転時間、逆洗入時刻が正しく設定されているか。	
17	ブロワのアース	アースは取り付けられているか。	
18	消毒剤の充填	消毒剤が開封(使用開始が近い場合)されているか。	
19	放流升の確認	雨水が逆流しない構造になっているか。	
20	基礎の記録	基礎の状況の記録(写真など)はあるか。	
21	工事完了届の手続き	工事完了届の手続きは済んでいるか。	
22	使用開始直後の点検	使用開始直前の保守・点検の手配はとれているか。	
23	保守・点検・清掃	法律による義務付けの説明は済んでいるか。	
24	定期検査	設置者に第七条、第十一条検査の義務付けを説明してあるか。	

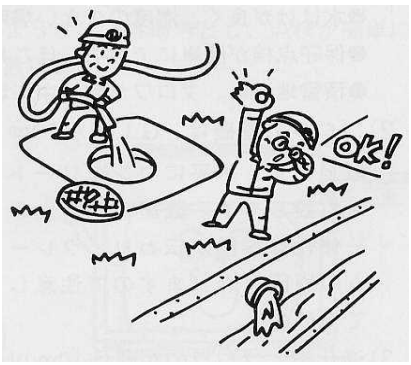
上記の通り確認したことを証します。

年　　月　　日　　担当浄化槽設備士氏名　　印

(浄化槽設備士免状の交付番号：　　)



引き渡し



検査･確認

1）確認と試運転が完了したら、設置者に引き渡してください。
2）引き渡し時には、使用方法を必ず説明してください。
3）チェックリスト(p17 を参照してください)を浄化槽に添付されている取扱説明書、維持管理要領書と一緒に必ず設置者に手渡してください。
4）維持管理業者が決まっている場合には、竣工検査の際に一緒に立ち会うように連絡して、必要な引き継ぎを行ってください。

11. 槽の外形寸法と仕様

型　　式		KRN-５型	KRN-7 型	KRN-10 型
人槽（人）		５	７	１０
各部寸法(㎜)	最大長さ	2,310	2,460	3,360
	最大幅	960	1,260	1,260
	全高	1,800	1,800	1,800
	流入管底	285	285	285
	流出管底	435	435	435
	流入･流出管径	φ100	φ100	φ100
	送気管径	φ13	φ13	φ13
重量（kg）		200	235	430
ブ　ロ　ワ		80 ﾘｯﾄﾙ/分	80 ﾘｯﾄﾙ/分	100 ﾘｯﾄﾙ/分
担体（ﾘｯﾄﾙ）		50	75	100

※重量はマンホールを含む。